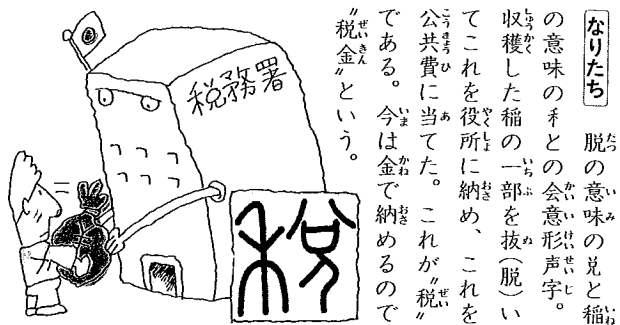


税

5年

12画 千禾和秘秘税



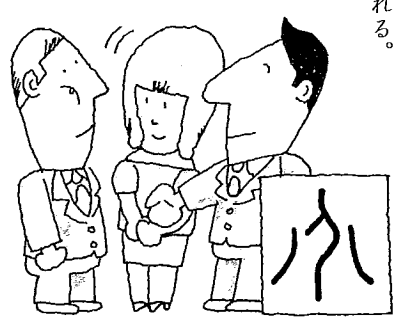
なりたち 脱の意味の兄と稲の意味の禾との会意形声字。収穫した稲の一部を抜(脱)いてこれを役所に納め、これを公共費に当てた。これが「税」である。今は金で納めるので「税金」という。

いみとじゆく
▼国や地方公共団体が国民から取り立てる金。
税金：租税としておさめる金。
税関：輸出入品・船・航空機の検査や取り締まり、関税の取り立てなどの事務を扱う役所。
関税：外国から輸入する品物に対して課せられる税。
課税：税金を課すこと。
徴税：税金を取り立てること。
脱税：納めるべき税金を、ごまかして納めないこと。
税率：税金をかける割合。
税理士：税に関する事務の代理や書類の作成を職業とする人。

よみかた 税法・税務署・税吏・印税・間接税・血税・減税・国税・重税・住民税・所得税・増税・地方税・納税・付加税・免税

介

4画 ノ人介介



なりたち 古い形は人と八との会意字で、人を他から分けへだてることを表した字。また、人を守る形と見て、「たすける」意味に使う。また、人が物に「はさまる」形とも見られる。

いみとじゆく
▼はさまる。間にある。
介在：二つのもののあいだにはさまっていること。【用例】複雑な事情が介在している。
介入：物事の間に入り、関係すること。【用例】紛争に介入する。
▼なかだちをする。
紹介：人と人との間に立つてなかだちをすること。【用例】介抱：介抱する。
介抱：傷病者などの世話をする。こと。【用例】老人を介抱する。

▼甲羅や殻を持った動物。
魚介類：海産動物の総称。魚や貝のこと。
▼小さい。つまらないもの。
一分：ひとりの。【用例】一介の学生。(学生にすぎないということ。)

鋭

15画 金钅钅钅



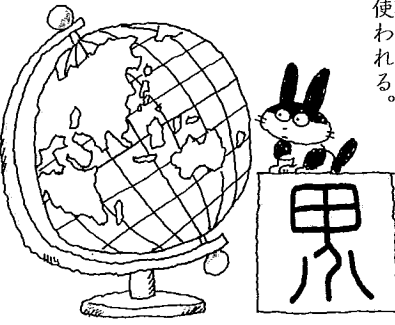
なりたち 開く意味の兄と金との会意形声字。物を切り開く金属という意味の字で、「切れ味のよい刃物・するどい」という意味を表した字。転じて、人の働きをするどいことにも使われる。

いみとじゆく
▼するどい。先がとがっている。
鋭利：刃物などがするどくどくがっついて、切れ味がよいこと。転じて、才気のあること。
鋭鋒(えいほう)：するどいほこさき。転じて、文章や言葉によるするどい攻撃。【用例】相手の鋭鋒をかわす。
先鋭：先がとがっついていて鋭いこと。転じて、思想や行動が急進的なこと。
▼勢いや働きなどが鋭い。
鋭敏：①感覚・思考などが鋭いこと。②頭の回転が早いこと。

よみかた 鋭意・鋭気・鋭新・鋭角

界

3年 1画 田田界界



なりたち 分ける意味の介と田との会意形声字。田と田とを分ける境を表した字。田と田の境が本義で、広く「境」のこと。転じて、「地域」の意味に使われる。

いみとじゆく
▼さかい。
境界：土地のさかい。【用例】境界線
限界：そこを超えないことのできない、さかい。【用例】体力の限界まで働く。
▼地域。ある範囲の中。限られた社会。
界限(きげん)：その地域。あたり。近所。【用例】新宿界限
世界：①「世」とは過去・現在・未来。②「界」とは上下四方のあらゆる地域。③地球上の全域。④同類の集団。【用例】学問の世界。
政界：政治に関係する人々の社会。
社交界：上流の人達が集まって交際する社会。

よみかた 眼界・業界・銀世界・下界・財界・視界・自然界・他界・文学界

介



よみかた 眼界・業界・銀世界・下界・財界・視界・自然界・他界・文学界